

日野市立日野第四中学校

令和6年度 授業改善推進プラン(数学科)

1. 生徒の現状

活用した資料等	各学年の分析結果
<p><1年生> ・総合学力調査(1年)</p> <p><2年生> ・学びに向かう力等に関する意識調査(2年)</p> <p><3年生> ・全国学力調査(3年)</p>	<p><1年生> ・「数と計算」「図形」の正答率が77.8%、「データの活用」の正答率が66.7%と、全体の2/3以上が正答できているのに対し、「変化と関係」の正答率が60.0%とやや低い。 ・「知識・技能」の正答率が73.9%であり、基本的な知識や計算力は全体の約3/4に身につけている。しかし「思考・判断・表現」の正答率が50.0%であり、上位層と下位層の正答率の差が66.6%であるため、既習事項を活用して問題解決をする能力に差があり、苦手としている生徒が多いことが分かる。</p> <p><2年生> ・当てはまる、どちらかといえば当てはまると回答のあった数値で分析すると、数学の授業の内容がよくわかる83%、言葉や公式の意味を理解しようとしている84%、途中の計算も書いている90%、どこで間違えたのかを考えている87%という達成度であった。一方で、数学が得意53%、反復練習をしている64%、問題文の内容を図や表、グラフに表して考えている51%であった。</p> <p><3年生> ・すべての問題において、東京都や全国の平均正答率を上回る結果となった。ほとんどの項目で東京都の平均より+5%以上上回っているが、「関数」は+2.4%とやや低めである。また、評価の観点では「思考・判断・表現」、問題形式では「記述式」の項目が、いずれも38.0%であり、東京都平均より+3.8%となっている。</p>

2. 授業改善策

改善の観点	具体的な改善策
<p><1年生> (1)関数 (2)思考力の向上</p> <p><2年生> (1)知識・技能 (2)思考・判断・表現</p> <p><3年生> (1)関数 (2)思考・判断・表現</p>	<p><1年生> (1)2学期に「比例と反比例」の単元を学習するので、苦手意識を持つ生徒も取りかかりやすいような導入の工夫をする。また、小学校までの知識が抜けている生徒がいることも想定されるので、既習事項との関連を意識し、復習や反復練習を行う。表やグラフをかく単元でもあるので、プリントで要点をまとめやすくしたり、ICTを活用したりして知識の定着をはかる。 (2)習熟度の高いクラスは、更に力を伸ばすよう発展問題を取り入れる。その他のクラスは、日常の事象との関連や活用方法を提示し、関心を持って単元の学習に取り組めるようにした上で、思考する問題を取り入れる。</p> <p><2年生> (1)数学的な問題解決に必要な知識・技能を身に付けさせるため、問題集等を活用した反復演習や解き直しを徹底して行う。 (2)身の回りの事柄について、目的に応じて数、式、図、表、グラフ等を活用し、既習の知識及び技能を関連付けながら、数学的な表現を用いて簡潔・明瞭・的確に表現したり、解決したりする時間を設定する。</p> <p><3年生> (1)関数の式・表・グラフの基礎を身に付けさせ、式・表・グラフの関連を意識させる授業を行う。また、ICT等を利用し、視覚的に理解できるよう工夫する。 (2)身の回りの事柄について、目的に応じて数、式、図、表、グラフ等を活用し、既習の知識及び技能を関連付けながら、数学的な表現を用いて簡潔・明瞭・的確に表現したり、解決したりする時間を設定する。</p>